



老後の楽しみを許さない現実

山梨県牧丘町（現山梨市牧丘町）で週末農業・

二地域居住を始めて、もう30年を超えた。今でこそ空き家の売買や農地の賃借はずいぶんと増えたが、当時はなかなか。結局、400坪ほどの竹藪と化した雑種地を購入して開墾。ところが非農業者につき、役場の指導で、宅地であることを証明するために、少なくとも一部を住宅用に土地造成することを余儀なくされた。結局、畑に300坪を使用することにし、残り100坪については土地造成に上物も含めて一挙に工事することにした。これについて相談し工事を請け負ってくれたのが、すぐ近くに住む大工棟梁のHさんである▼Hさんは大工としての腕も見事であるが、酒がまた大好き。飲み友達として、30年以上盃を交わしてきた。Hさんは84歳。この10年程は大工仕事を減らし、自らの畑で極力自給し「仙人」のような余生を送ることを夢見てきた。ところが次第に状況は変化し、このところは悲鳴をあげるほどの忙しさ。一つは当地はブドウの巨峰やネオマスカットの全国でも有数の産地であるが、担い手の高齢化に人手不足が重なり、三拝九拝されて連日のように作業に駆り出されている▼もう一つが住宅の補修・改造である。自分が建てた住宅はやむを得ないとして、最近建てられた建物は、補修できる者がいないことから、業者は断られることを期待して、とんでもない金額を吹っかけるらしい。結局家主はHさんに泣きついてくるとか。住宅メーカーは大工を下請け化する一方、プレカストしたものをボルトとナットによる作業が主で、大工の基礎的技術は伝承されておらず、結局、補修はHさんのような年寄りに集中しているらしい。どこの世界も循環が滞っているのが実情のようで、悲しいことこの上ない。

（土着菌）